

三田労働監督署管内の労働災害の現状

(平成23年から平成28年までに提出された労働者死傷病報告[休業4日以上]2911件分の分析)



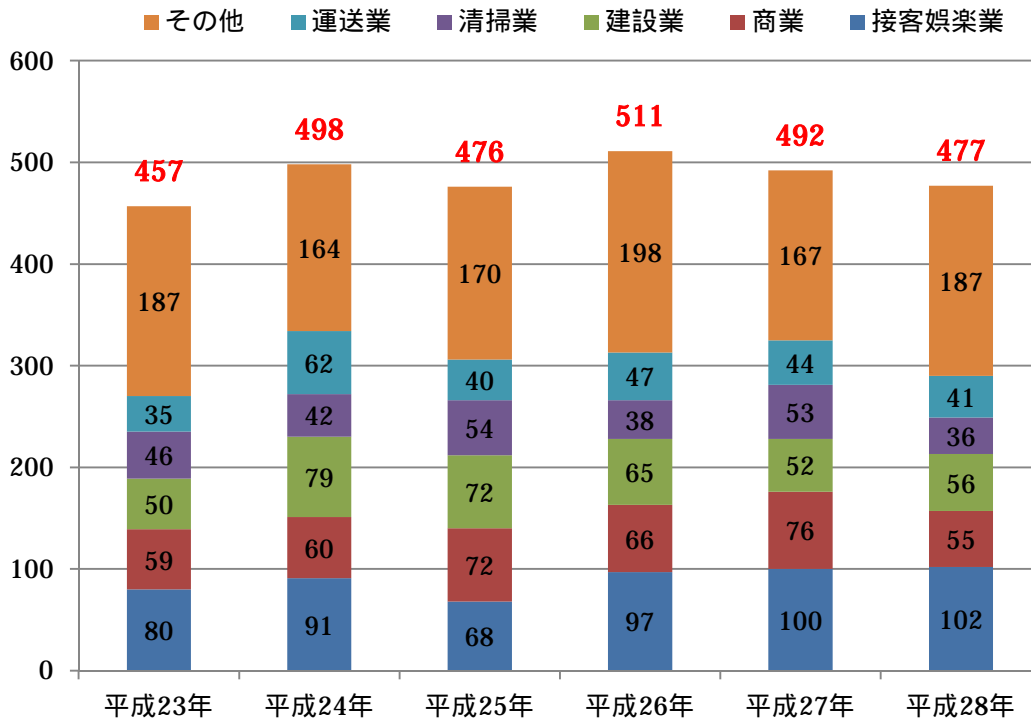
三田労働基準監督署
安全衛生課

1

災害の推移

平成28年の三田労働基準監督署管内の労働災害による死傷者数（休業4日以上）は、前年と比べて15人減少し、477人となりました。

平成23年以降、増減を繰り返しておりますが、長期的にみた場合には増加傾向にあるといえ、特に接客娯楽業や商業といった第三次産業に著しい増加傾向が認められます。

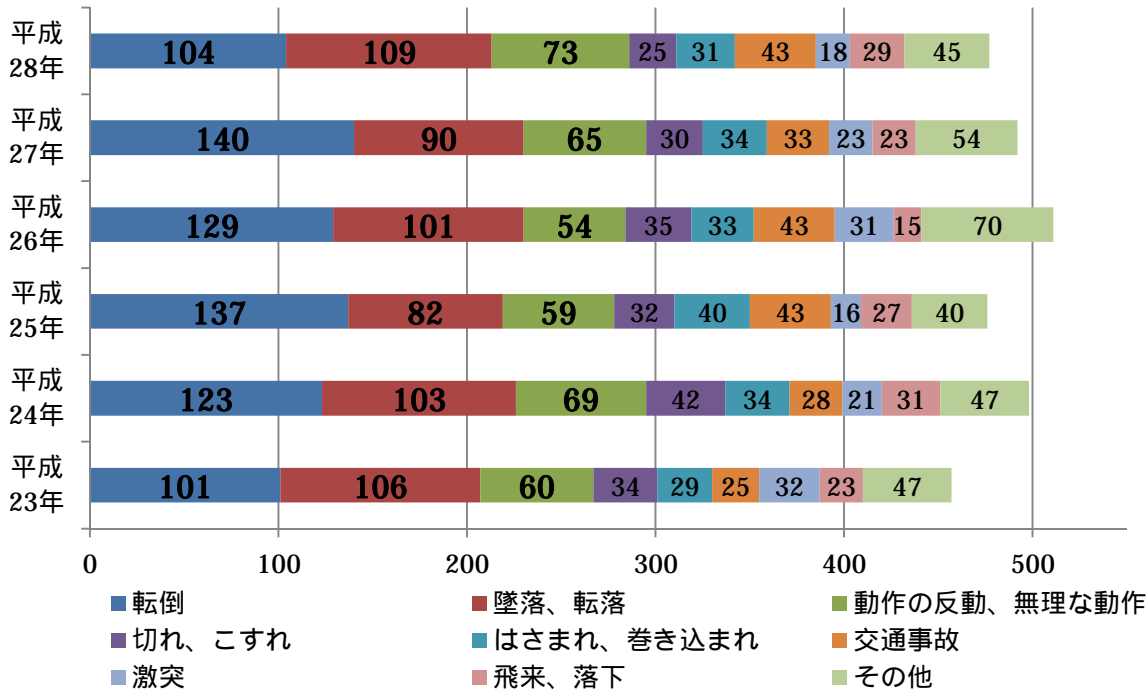


	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	計
接客娯楽業	80	91	68	97	100	102	538
商業	59	60	72	66	76	55	388
建設業	50	79	72	65	52	56	374
清掃業	46	42	54	38	53	36	269
運送業	35	62	40	47	44	41	269
その他	187	164	170	198	167	187	1073
金融公告業	14	9	6	14	20	15	78
保健衛生業	14	9	7	24	16	8	78
映画演劇業	6	9	13	10	10	18	66
製造業	9	9	4	13	7	3	45
通信業	9	15	10	9	3	5	51
教育研究業	3	5	7	5	2	7	29
農業	1				1		2
その他	131	108	123	123	108	131	724
総計	457	498	476	511	492	477	2911

2 事故の型別発生状況

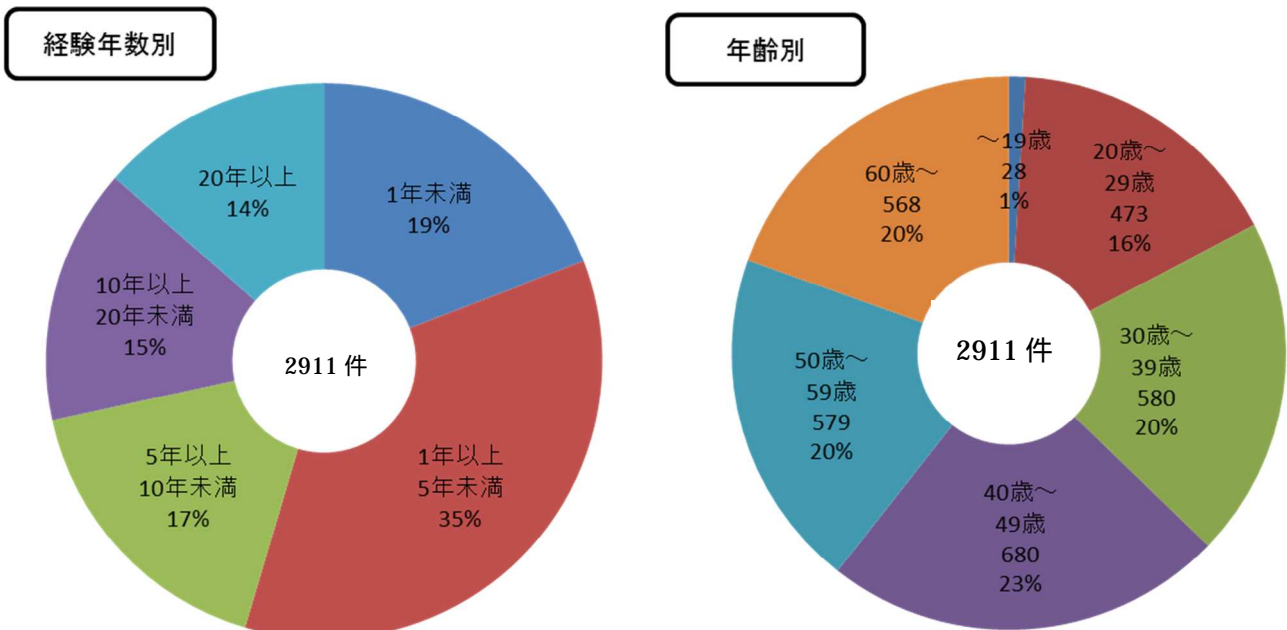
事故の型別でみた場合、「転倒」・「墜落、転落」・「動作の反動、無理な動作」といった3つの分類で半数以上の災害を占めています。

平成23年の58.4%から平成28年は60%と行動災害の占める割合が増加しています。



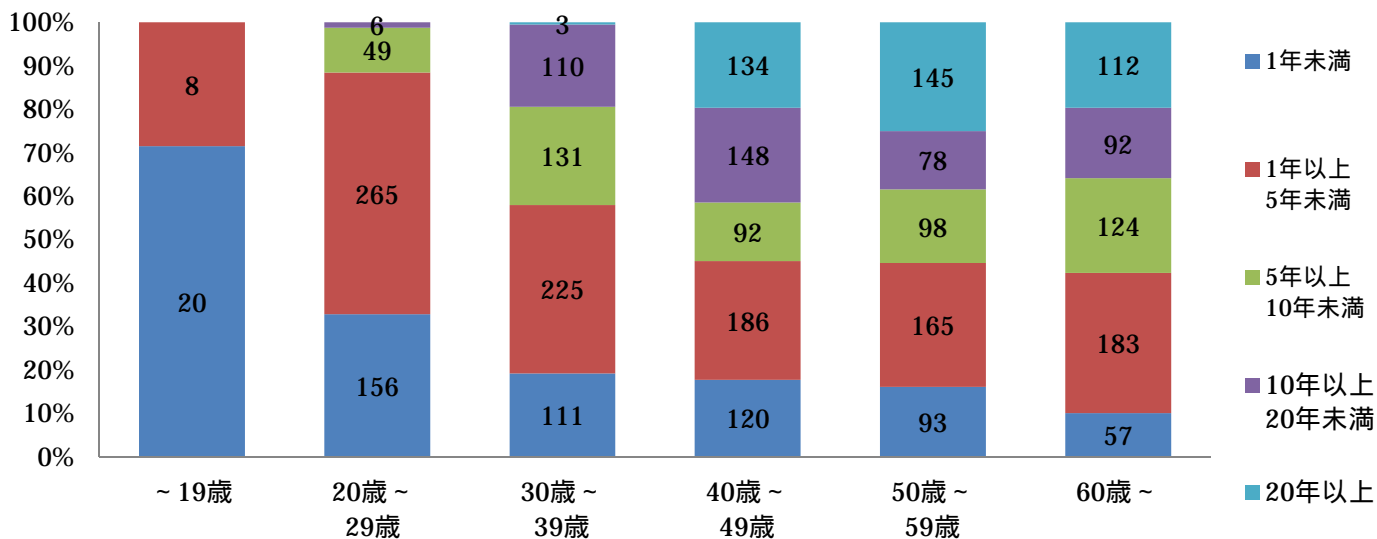
3 経験年数・年齢別発生状況

経験年数別でみた場合、5年未満で半数以上を占めている状況となっています。



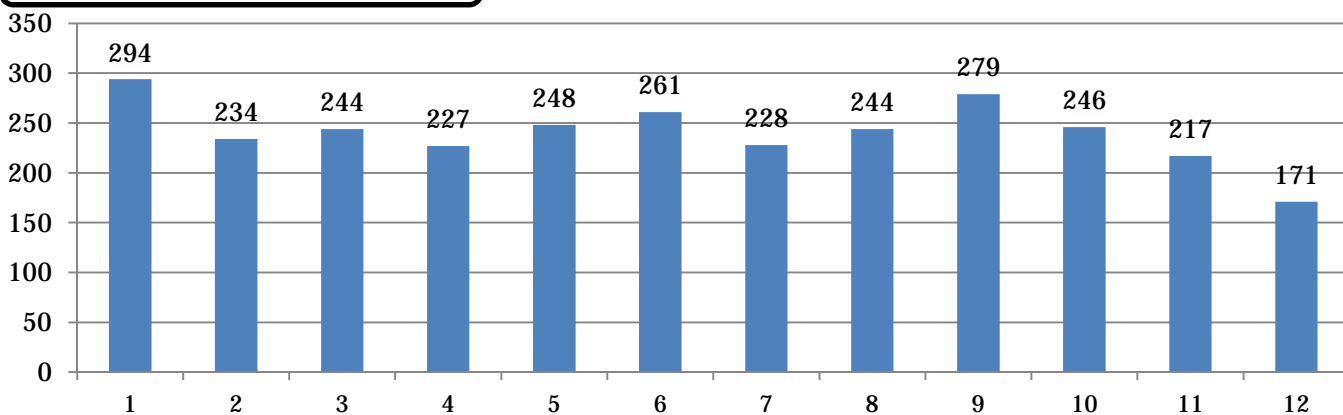
経験年数と年齢との関係

40歳以上であっても、経験年数5年未満の災害が約40%を占めており、
「高齢者＝ベテラン＝安全」ではないといえます。



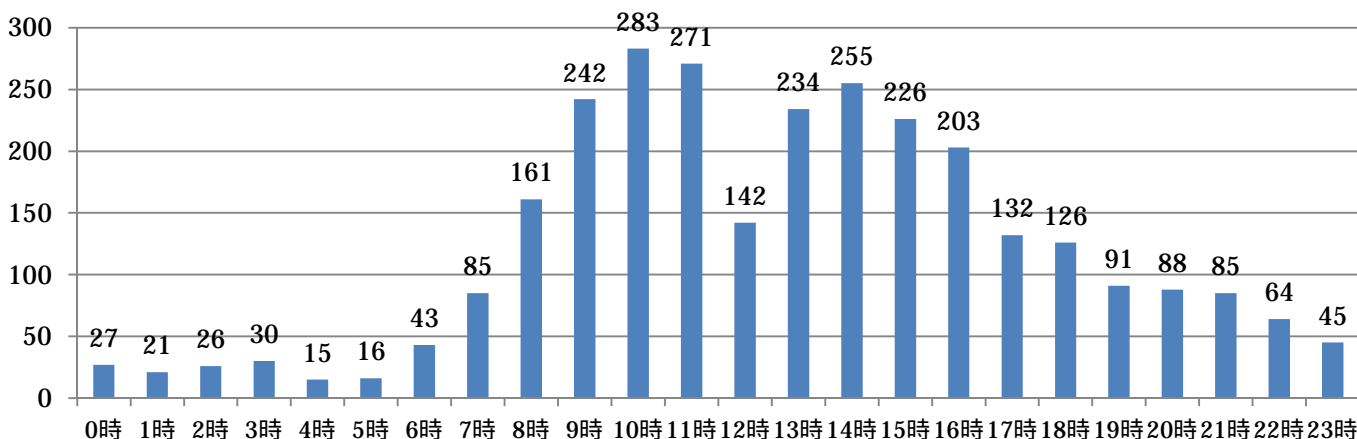
4 発生月別・時間別

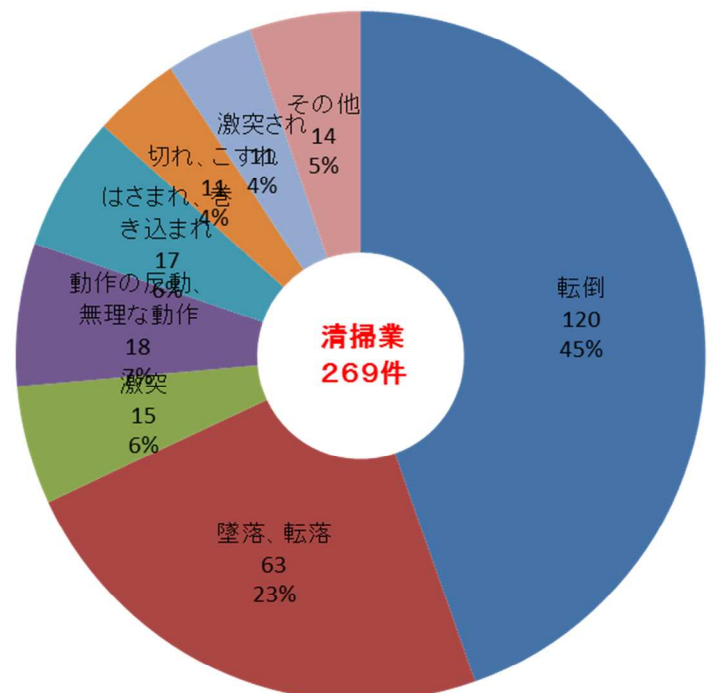
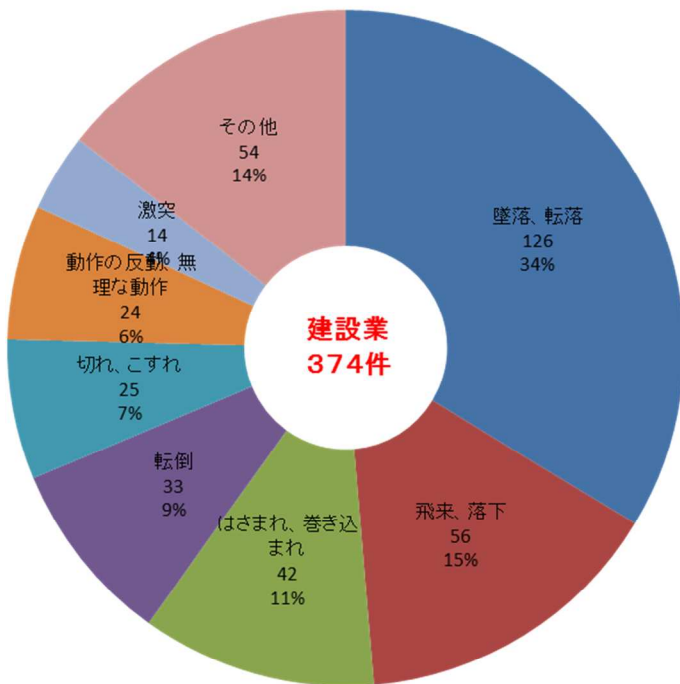
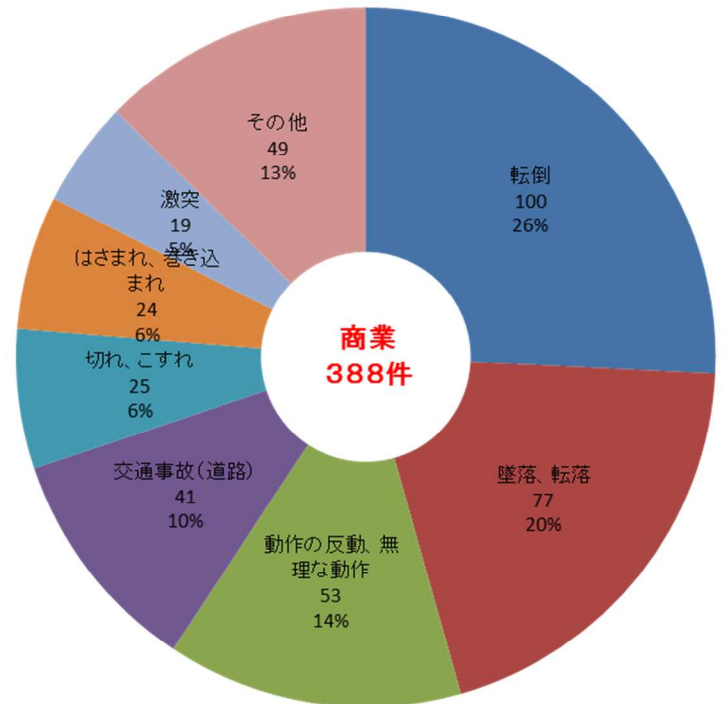
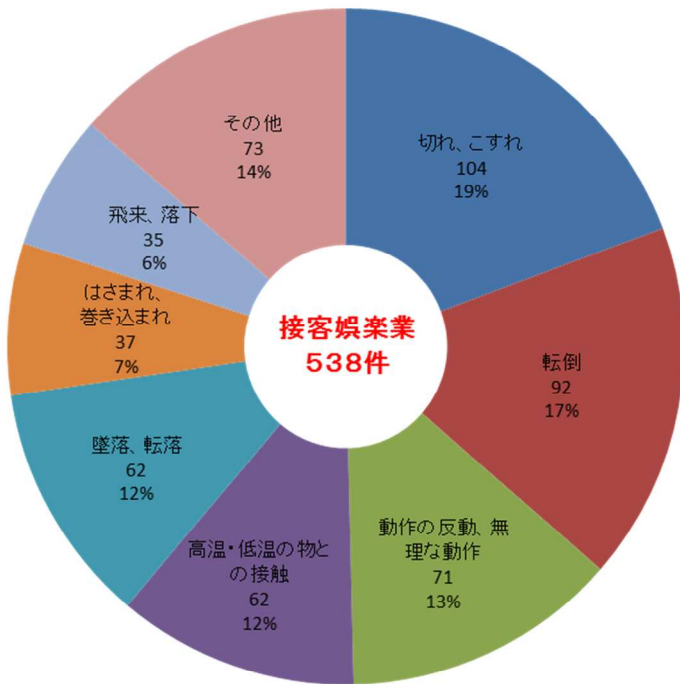
発生月別 [総計 2911 件]



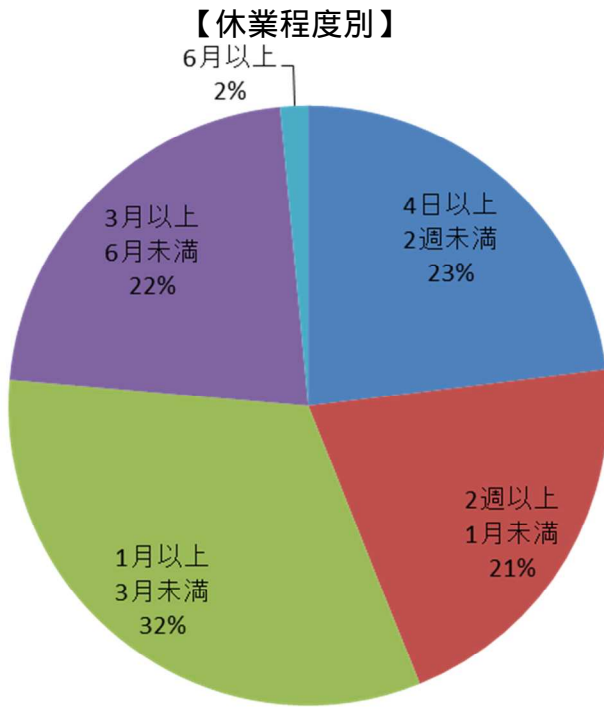
発生時間別 [総計 2911 件]

各企業の始業時間にも影響していますが、最も多いのが10時と始業開始後に多く発生しており、また、13～15時の一般的な昼休み後にも多く発生しています。

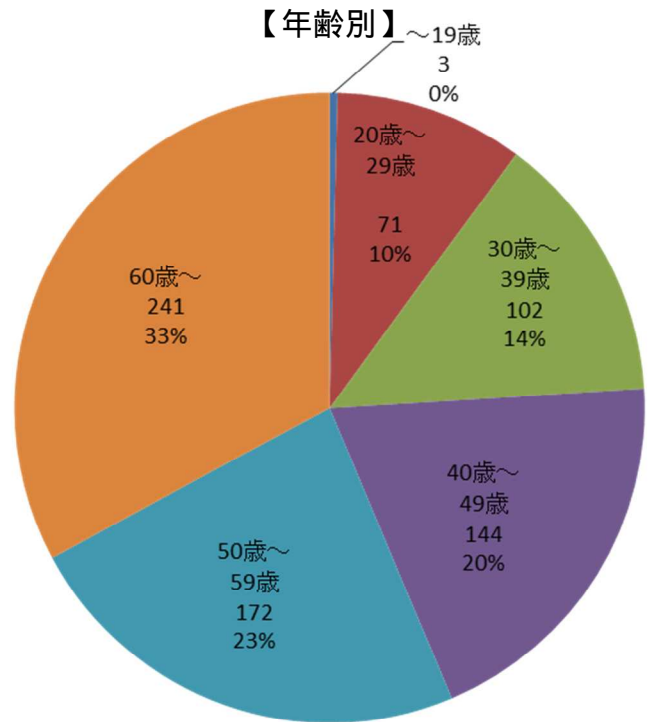




転倒災害 [総計 733 件]

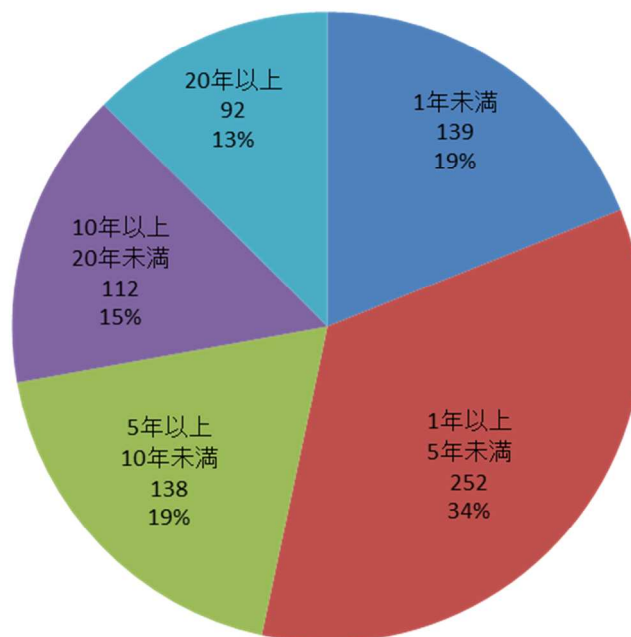


たかが「転倒」と思われがちですが、半数以上が休業1ヶ月以上に至っています。



半数以上が、50歳以上に発生しています。

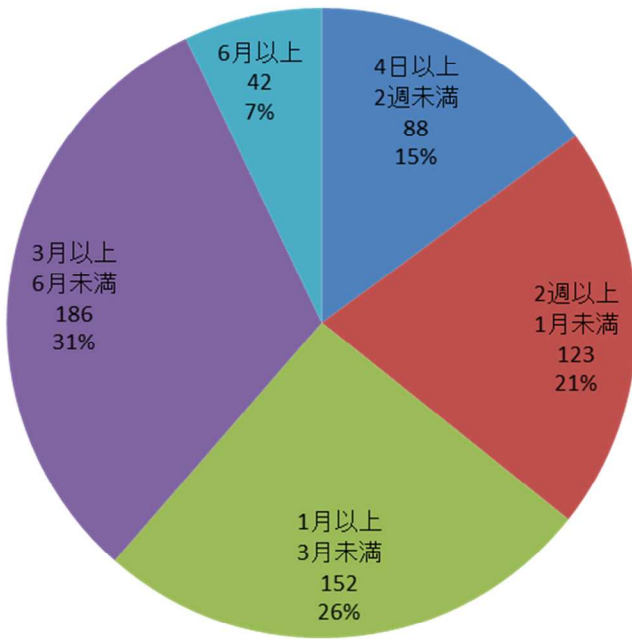
【経験年数別】



経験年数にかかわらず発生していますが、5年未満で半数以上を占めています。

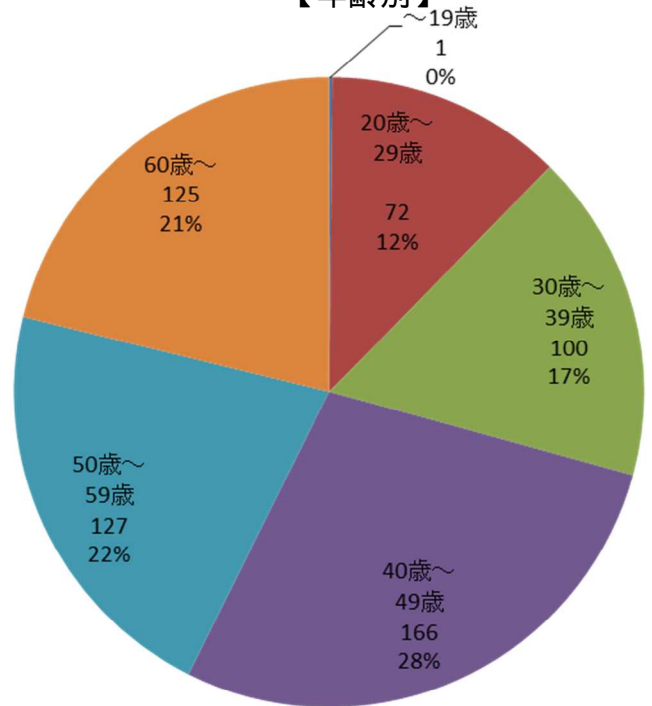
墜落、転落災害 [総計 591 件]

【休業程度別】



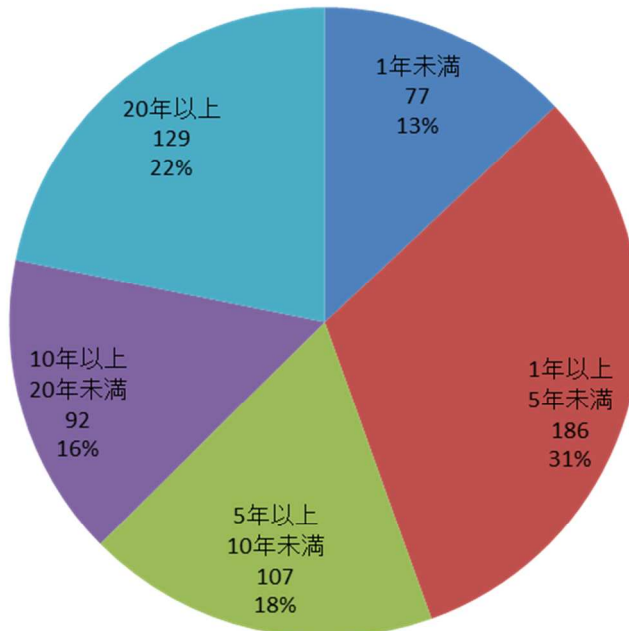
約 40% が休業 3 ヶ月以上に至っているという、
災害発生時には重篤度が高くなります。

【年齢別】



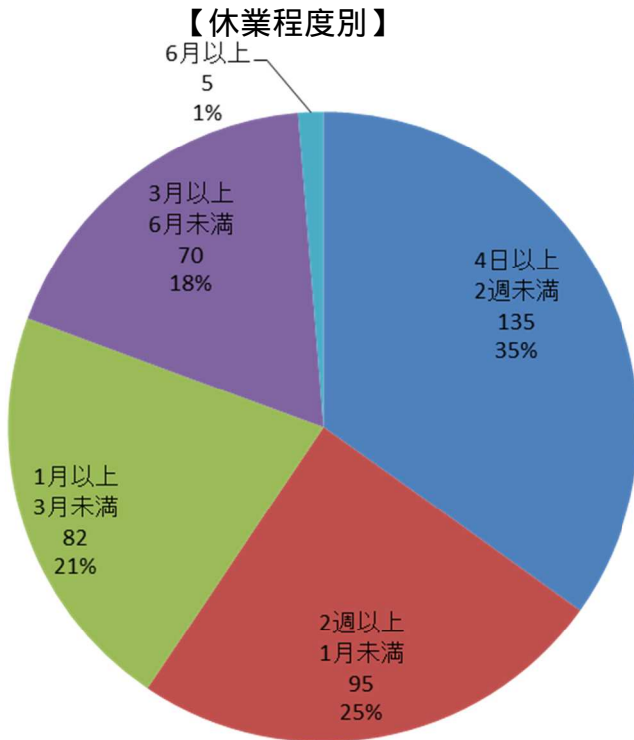
40 歳代以降で全体の約 70% を占めています。

【経験年数別】

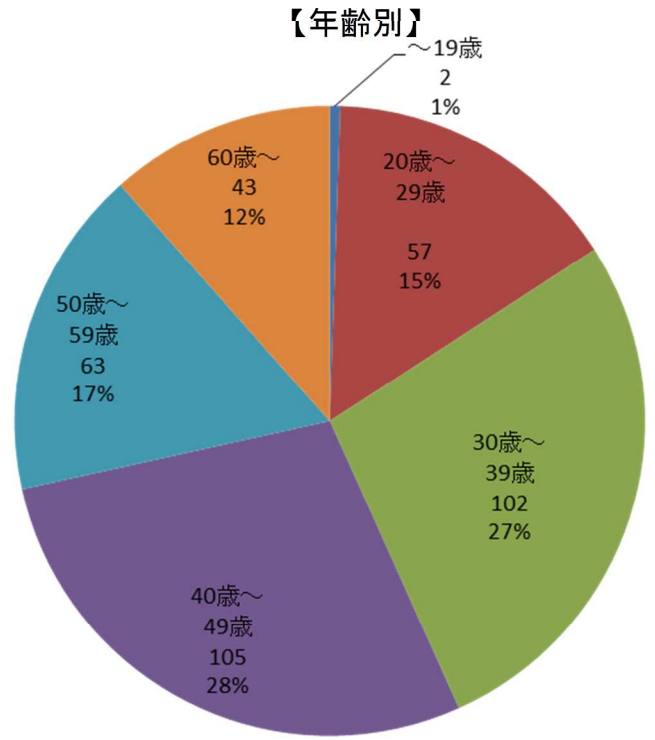


経験年数 5 年以上の比較的ベテラン層が半数以上を占めています。

動作の反動、無理な動作 [総計 381 件]

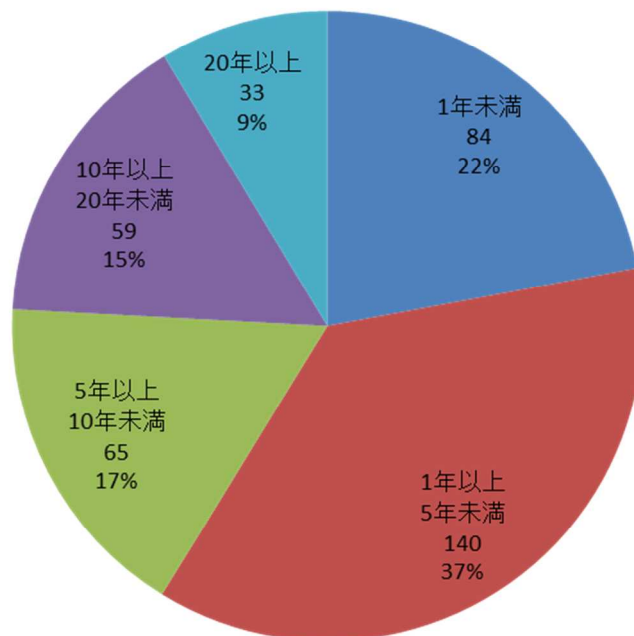


60%が休業1ヶ月未満に至っているという、災害ですが、腰痛等の場合には再発を繰り返す場合もあります。



30歳代、40歳代の発生が多くなっています。

【経験年数別】



経験年数5年未満が約60%を占めています。